

雲南市水道事業の現状

1. 雲南市水道事業の概要（令和3年度末現在）・・・別紙

給水人口（水道を使用している人数）	33,929人
水道普及率	96.1%
年間総配水量（1年間で作った水道水の量）	3,818,951 m ³
年間有収水量（作った水で料金となった量）	3,412,982 m ³
浄水場の数	33か所
水道管の長さ	905,789m
職員数	17名

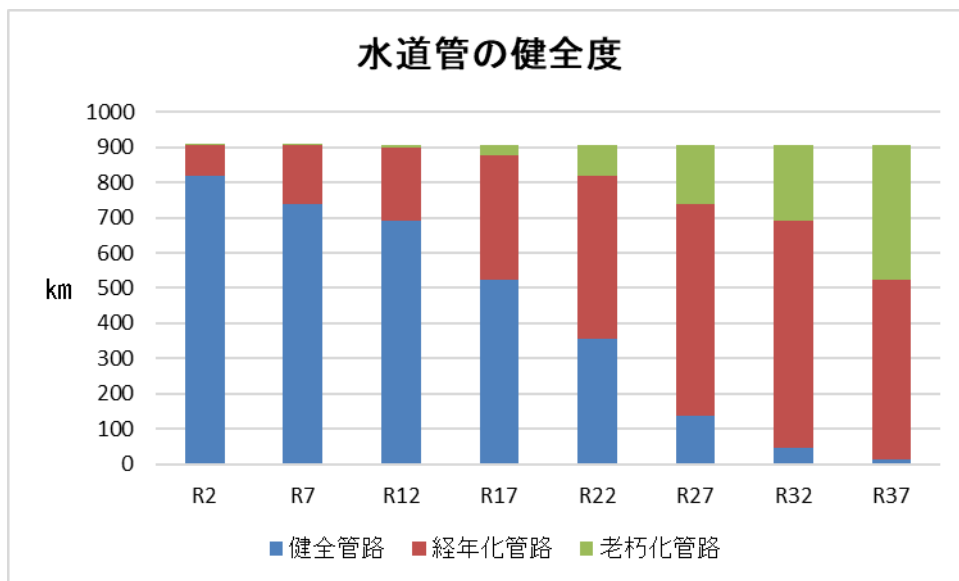
2. 雲南市水道事業の課題

- (1) 管理する施設が多い 浄水場 33か所、配水池 109か所
 浄水場・・・水を取り入れてろ過したり薬品を加えたりして消毒し、飲用できるようにする施設。
 配水池・・・浄水場で作った水道水を配る前に一時的に蓄えておく施設。
- (2) 水道管の耐震化の遅れ 基幹管路の耐震適合率 26.5%
- (3) 管路の老朽化
 令和2年度現在、耐用年数を過ぎた水道管は全体の9.7%（86.3km）だが、20年後には61.9%（552km）になってしまう。

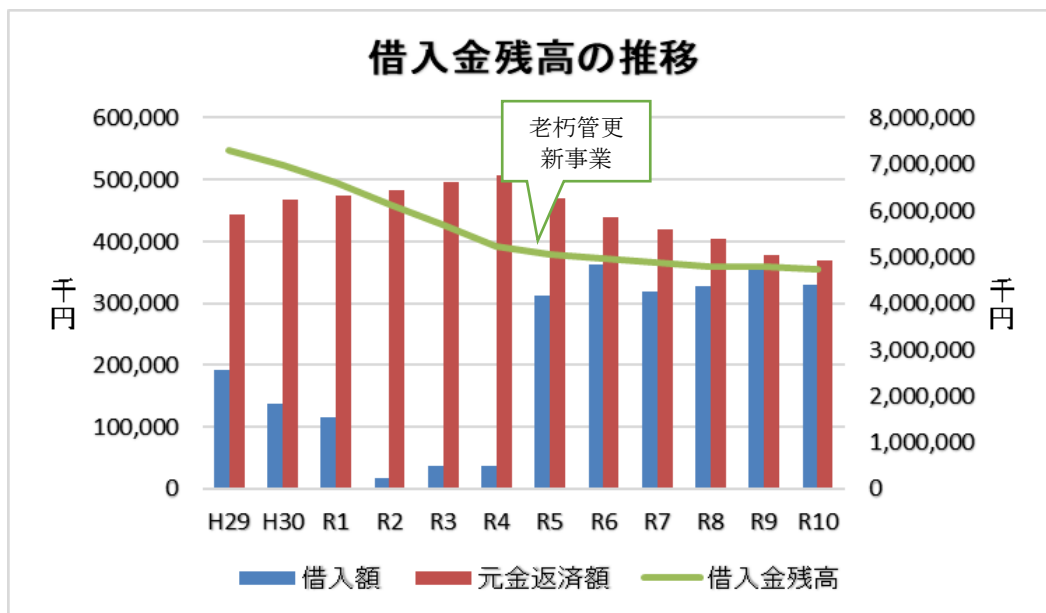
水道管の健全度

（単位：km）

区分	R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37
健全管路	819.7	737.4	692.5	524.0	354.0	136.3	47.5	13.3
経年化管路	85.8	167.8	206.1	353.0	465.7	601.1	645.0	510.7
老朽化管路	0.5	0.8	7.4	29.0	86.3	168.6	213.5	382.0



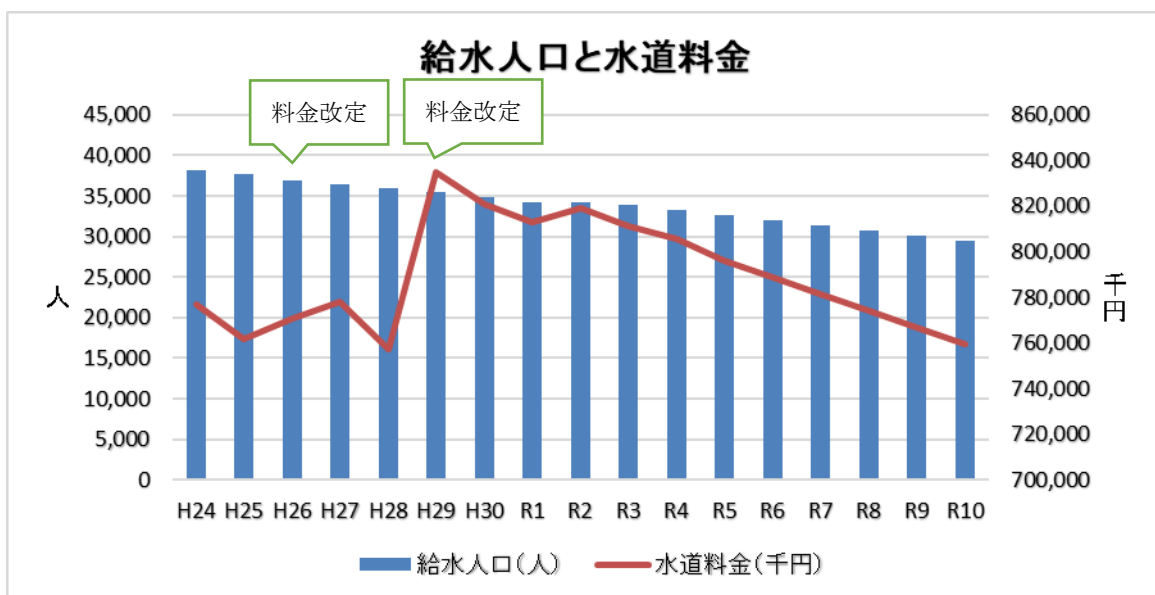
(4) 借入金への依存



- ① これまでは水道のない地域を解消するための事業を中心としてきたが、今後は古くなった水道管や施設を更新していく事業へシフトしていく。
- ② 令和5年度から老朽管更新事業を始めていく予定。

(5) 人口減少や節水型機器の普及による使用水量の減少

3. 給水人口と水道料金の推移



- ① 平成26年、29年に料金改定をしている。
- ② 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一般家庭の使用量が増加。
- ③ 令和4年度以降は予測。

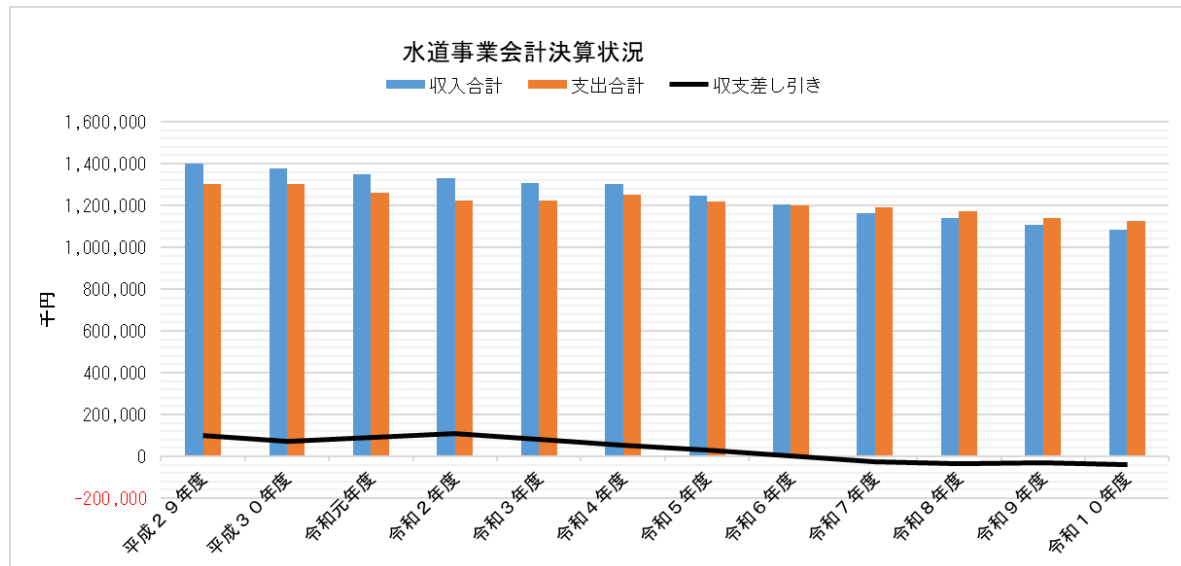
4. 水道事業の経営状況

水道事業会計収支状況

単位: 千円

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
収入合計	1,402,521	1,374,898	1,351,458	1,332,733	1,306,385	1,303,610	1,248,323	1,202,752	1,165,057	1,138,241	1,109,337	1,085,053
支出合計	1,300,952	1,304,025	1,261,087	1,225,006	1,223,425	1,251,777	1,217,796	1,201,912	1,190,392	1,172,441	1,138,425	1,125,748
収支差し引き	101,569	70,873	90,371	107,727	82,960	51,833	30,527	840	▲ 25,335	▲ 34,200	▲ 29,088	▲ 40,695

令和3年度までは決算値、令和4年度は予算額、令和5年度以降は計画値。



- ① 平成29年度（料金改定）以降、計画通りの利益を確保している。
- ② 令和6年度以降は支出が収入を上回ってしまう。

5. これまでの経営対策

- (1) 施設の合理化
浄水場の数 平成25年度 36か所⇒ 令和3年度 33か所
- (2) 職員数の減
平成25年度20人⇒ 令和3年度17人
- (3) 借入を減らし、将来の負担を抑制
借入の必要な事業を抑制し、支払利息や返済元金を減らしていく。
- (4) 事業の優先度の検討
水道のない地域を解消するための事業を中心としてきた。
- (5) 水道料金の未収金の減少
平成25年度 14百万円⇒ 令和3年度 9百万円
- (6) 有収率（作った水を水道料金にできた割合）の向上
水道管の漏水調査などを積極的に行い、有収率が向上。
平成25年度 89.2%⇒ 令和3年度89.4%

6. これからの経営対策

(1) 施設台帳管理システムの活用による効率的な更新計画

(2) 管路更新に合わせたダウンサイジング

(3) 広域連携の推進

事業統合、経営統合、人材の融通・派遣、事務的な協力の実施等